

## 戦時体験語り反戦訴え 新潟で宝田明さん講演

新潟県9条の会と新日本婦人の会県本部は21日、新潟市で俳優の宝田明さんを迎え、講演会を開き、350人が参加しました。

9条の会呼びかけ人代表の中村洋二郎弁護士は「戦争につながる悪法は許しておけない。廃棄するまでたたかおう。宝田さんのお話を力にして運動を大きく広げていこう」と呼びかけました。

宝田さんは、終戦を旧満州（中国東北部）のハルビンで迎えました。旧ソ連軍によって右腹を撃たれ、退役軍医から麻酔もないなか弾を取り出してもらい命拾いしたことや、強制労働にだされていた3番目の兄が戻ってこないにもかかわらず日本へ帰国せざるを得なかったつらい体験を吐露。「戦争では無垢（むく）の民がみんな犠牲になっている。それが

戦争なんです。戦争は憎しみ、憎悪しか生まれない」と語りかけました。

宝田さんは、戦争法廃止の国会前集会に参加していたことも話し、日中関係について「過去の戦争など歴史の真実をきちんと伝え、国民に浸透させる努力をしている姿を示し、信頼を得ていくことが大事だ」と強調しました。

最後に、自ら作詞した戦争のない世界を願う詩を朗読し、壇上で参加者と「青い山脈」を合唱しました。

参加者から「迷いながらも来て本当に良かった。150%も満たされた。多謝！」「心に響くお話で、義母を連れてきたかった」との感想がありました。

20日にも宝田さんは、父の出身地・村上市で講演し、450人が聞き入りました。



壇上で参加者と合唱する宝田明さん  
（中央マイクの人）＝21日、新潟市